

「表裏一体」

網田中学校 3 年 内田 あかり

皆さんは、間違いや失敗を恐れて行動できずにいませんか？

失敗や間違いと聞くと他の人から責められてしまう、物事が途中で中断されるなどあまり良いイメージはないかもしれません。実は私も引っ込み思案で、失敗を恐れるあまり、他の人を見てからしか行動できませんでした。

例えば授業中に、先生から問いかけられたとき、誰かが声を出したり、手を挙げたりしたのを確認して自分も反応していました。しかし今は、失敗や間違いがあるからこそ今の自分がある、挫折を経験していくことの大切さを知るべきだと思うようになりました。

そう思うようになったのは、所属しているソフトテニス部での出来事からです。部活動中にサーブの練習をしていた時のことです。

その頃の私は、ラケットを下から振る難易度が低いサーブですら確実に入れることができませんでした。それで練習でさえも、アウトやネットをすることを怖がり、軽く置きにいくように打っていました。しかし、それを見ていた先生から「失敗してもいいから思い切りラケットを振ってみて」と言われ、その通りに何日も練習を繰り返しました。

思い切り強いサーブを打ってみると、最初にももちろん盛大なアウトになり、全然入りませんでした。それを何回も続け、失敗を重ねていることに変わりはないので、先生から指導される毎日でした。しかし、その失敗から、ちょうどいい力の入れ方や打つときのポジションなどを考えるようになりました。

たった1回ではなく、何度も失敗したからこそ、初めて気づくことがあり、成功し続けていては気づかない発見がありました。

それらの経験から私は、挑戦して、失敗を味わうことも大切だと考えるようになりました。もちろん失敗することばかりが良いというわけではなく、成功し続けるのもすごいことです。それを理解した上で、普段恐れられている失敗や間違いのとらえ方をよい方向に変え、色んなことにチャレンジしてみるのがいいことなのだと気が付きました。

そこで私は、去年の3月、初めて応援団の副団長に立候補しました。

やはり最初は不安で、支持をだす時は、わざわざ団長に確認をとっていました。また、「静かにして」の一言が言えずに、自然と静かになるのを見計らって、その隙間に発言していました。このように、すぐには副団長らしい行動を取れませんでした。しかも、予定より演舞の進みが遅く、不安でいっぱいでした。私は、不安を無くすために、放課後の練習はもちろん、休日や家でも一生懸命演舞を練習しました。

ある日、応援団の後輩から「先輩が完璧だから、先輩を見れば何とかなる」と言ってもらいました。とても嬉しかったです。支えてくれる先生や団員達の存在もあり、自信がついて最終的には団員から頼られる存在になったと思います。運動会が終わった後の解団式では、自然と「副団長に立候補してよかった」とみんなに伝えることができました。

私はこの経験を通して、失敗を恐れていては得られないものがあると思いました。副団長をやっていく中で、挫折や困難にぶつかり、その経験が私を変えたと思います。

「挫折や困難が人を変える」なんて、綺麗事と言ってしまえばそれまでですが、綺麗事で終わらせないために失敗をどう活用し進むのか、行動を起こす自分自身が大切だと思います。

「挑戦して失敗するのが怖いと思うのか、それとも、自分のためのチャンスだと思うのかは自分次第だよ。」とあの頃の私に伝えたいです。

失敗と挑戦は表裏一体だと思います。これからも挑戦する自分を大切にしたいです。